

北の志づめ

第231号

令和7年10月



開拓神社 大神輿



抜穂祭(北海道神宮神饌田)

先人に学ぶ

アイヌの助けで蝦夷地踏査 松浦武四郎 北室 かず子氏

円山地域の生物

野鳥観察の事始め 円山は赤とんぼの季節 北海道大学大学院理学研究院 教授 高木 昌興氏

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



北の志づめ 第231号 令和7年10月1日発行

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

電話／011-611-0261 FAX／011-611-0264 北海道神宮社務所

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



先人に学ぶ

北室 かず子

第三回

アイヌの助けで蝦夷地踏査



松浦武四郎記念館所蔵

まつうらたけしろう
松浦武四郎文化十五年（一八八八年）
明治二十二年（一八八八年）

北海道神宮の境内社である開拓神社には、北海道開拓に尽力し、大きな

功績を残した三十七柱が祀られています。その一柱が松浦武四郎です。

松浦武四郎は、幕末に蝦夷地を六回にもわたって踏査しました。それまで伊能忠敬や間宮林蔵によつて海岸部の地図は作られていましたが、内陸部は明らかになっていま



アイヌの助けで蝦夷地の踏査を成し遂げた様子がわかる『天塩日誌』。札幌市中央図書館所蔵

せんでした。武四郎は、川をさかのぼって内陸部に分け入るとともに、約九千八百ものアイヌ地名を記録して『東西蝦夷山川取調図』を、安政年間（一八五四年）に刊行しました。その多くが現在の北海道の地名につながっています。

武四郎は伊勢国須川村（現・三重県松阪市小野江町）に紀州藩の郷士の四男に生まれました。家は伊勢街道に面しており、諸国から伊勢神宮に参拝に来る人々を見て育ちます。自由な往来

が許されない江戸時代にあつて、外に開かれた稀有な環境でした。十六歳で放浪の旅に出て、唯一の海外への窓

だった長崎滞在中に、蝦夷地がロシアに狙われていることを知ります。蝦夷地を知らなければ国を守ることはできない。そう考えた武四郎は、弘化二年（一八四五年）を皮切りに、私人として三度も蝦夷地を踏査しました。その記録は、尊王攘夷思想の中心にいた水戸藩の藤田東湖や、吉田松陰ら志士たちの注目を集め、盛んな交流が生まれました。

ペリーの浦賀来航をはじめ列強が次々に喉元に迫り来る情勢下で、幕府は蝦夷地通の武四郎に白羽の矢を立てます。幕府の役人としてさらに三度、蝦夷地へ赴いたのでした。

生涯で計六度ももの困難な旅を助けたのが、アイヌの人々でした。武四郎は寝食を共にする中で、自然と共生するアイヌ民族の深い知恵と技術に



東西蝦夷山川地理取調図の一部（拡大）。エンカルシペは藻岩山。コトニヤマコマナイの地名も見える。「大都を置くの地」と札幌を拠点とした開拓を進言した。北海道大学附属図書館所蔵

長百五十^{サシ}に満たない小柄な体で険しい山河を巡って獲得した生の情報でした。

明治時代になると「蝦夷地」に代わる名称を六案提出し、その中から「北加伊道」が選ばれ、「北海道」となりました。

晩年は趣味人として生き

ました。なかでも東京神田に八年をかけて作り上げた畳一畳の庵は一畳敷と呼ばれ、武四郎の美意識が凝縮しています。柱や天井などの部材が、由緒ある神社や寺の修繕などの際に出た木片からなっているのです。伊勢神宮、出雲大社、大宰府天満宮、鶴岡八幡宮、法隆寺……、旅で知り合った人々に依頼して集めた約九十カ所の木片が、つつましやかな空間で響き合っています。

武四郎は探検家と呼ばれますが、地理学者であり、アイヌ文化を究める民



明治時代の評論家、内田魯庵が「好事の絶頂である」と称えた「一畳敷」。INAX出版『一畳敷』より転載。

族学者であり、義憤に燃える思想家、ジャーナリスト、蝦夷地の人と風物を愛する紀行作家、画家でもありました。吉田松陰は「奇人で強烈な個性の持ち主」とその本質を見抜いていました。武四郎は、森羅万象を調べ、収集し、発信したマルチな知の巨人といえるのではないのでしょうか。

プロフィール

昭和三十七年（一九六二）生まれ。札幌市在住。筑波大学比較文化学類卒業後、婦人画報社（東京）で月刊誌の編集に携わり、平成三年（一九九二）より札幌でノンフィクションライターとして活動。

その後、ほとぼしる才知と情熱のままだに、『石狩日誌』や『天塩日誌』といった一般の人が読みやすい紀行本を計百五十一巻も出版しました。それは身

野鳥観察の事始め

円山は赤とんぼの季節

北海道大学大学院理学研究院
教授 高木 昌興

円山の森の晩夏は、野鳥マニアにとって心躍る季節です。北海道よりも北の地域で繁殖を終えた鳥たちが南に移動していく時の休憩場所になっているからです。普段は観察することができない野鳥を観察することが出来ます。私はマニアではありませんが、偶然の出会いには嬉しいものです。野鳥観察の初心者には普段見慣れない鳥たちを探し、種類を区別することは容易ではありません。そこで今回は鳥と同様に上手に飛ぶ、さらに海を越えた渡りもできるトンボに注目してみたいと思います。

表題の赤とんぼ、実のところアカトンボという和名(国内で学術的にも通用する種名)のトンボはいません。赤とんぼというのは、秋に多く観察されるアカネ属(トンボの

分類学上のグループ)の黄色から赤色、茶色を帯びた種の総称です。この機会に円山周辺で観察できる赤とんぼを詳しく紹介します。

一番身近な赤とんぼは、アカアカネです。円山の北方面から南に向かって途切れなく移動する夥しい数の赤とんぼを目にされた方もいるかと思えます。数の多さでは間違いなく赤とんぼを代表する種です。平地で羽化したものが涼しい山の高いところで成熟し、山から降りてきた時に大きな群れになります。アカアカネは腹(尻側の長いところ)の上面が朱色、下面は黄色で黒い梯子模様です(写真1)。翅(鳥では羽ですが昆



【写真1】アカアカネ・上オスと下メス



【写真2】ノシメトンボ・前オスと後メス



【写真3】コノシメトンボ・前オスと後メス

虫でははねに翅の漢字が使われます)がついている翅胸はくすんだ緑色かかった黄色で黒い複雑な線模様が目立ちます。確かに赤色系のトンボではありませんが、赤とんぼというほどには赤くないのではと思います。季節が進むと数は少なくなり、同じアカアカネでも体の大きさが小さいものが多くなる傾向があります。次に



【写真4】マユタテアカネ・左オスと右メス

が焦茶色をしています。オスの体は全体に茶色から焦茶色、メスは鮮やかな黄色の胸に黒い線が目立ちます。ノシメトンボは赤くないむしろ茶とんぼです。赤い赤とんぼです。かな赤色を呈します。メスも翅の先端が焦茶色は同様ですが、やはり黄緑色をしています。さらに数が少ないマユタテアカネのオスの腹はかなり赤くなります(写真4)。前額に黒い点は鼻の穴のように見えます。この種を見分けるポイントです。さらにもう1種の赤とんぼ、ミヤマアカネです。ノシメトンボの翅に似ていますが先端は焦茶色にはなりません(写真5)。オスは全体に綺麗な赤色を呈します。

もう2種を紹介します。1つはウスバキトンボです。このトンボは赤とんぼに含まれない渡りをする種として知られています。円山では7月くらいから見られ始め、10月くらいまで見られます。黄金色の透明感の



【写真5】下オスのミヤマアカネと上オスのノシメトンボ

あるとても美しいトンボです。成熟すると腹の上面、複眼が朱色に染まり、全体的に赤みを帯びて見えます。もう1つはキトンボです(写真6)。全身が黄色、4枚の翅の体側半分ほどまでも黄色い小型のトンボです。初秋まで見られるこのトンボは成熟すると写真6のように見事な朱色に染まります。私が最も好きな赤とんぼです。このトンボが見られなくなると札幌の秋は深まります。



【写真6】オスのキトンボ

今年の晩夏から初秋は赤とんぼの代表格の5種、アカアカネ、ノシメトンボ、ナツアカネ、コノシメトンボ、ミヤマアカネ、さらにウスバキトンボ、キトンボを加えた7種を探してみてください。トンボから円山の自然を楽しみましょう。

社頭風景

六月～九月

例祭

本年の例祭は本年番および山車年番を第一本府祭典区の奉仕により斎行されました。六月十四日(土)午後三時の頓宮修祓祭にはじまり、午後五時には万灯のお囃子により第二鳥居から年番役員が参進し、修祓を受けました。午後六時から宵宮祭を斎行いたしました。十五日(日)午前十時から二百名を超える参列のもと例祭を斎行いたしました。

舞台などでは様々な催しが奉納され、十六日(月)の神輿渡御には勇壮な調べを奏でる維新勤王隊を先頭に、時代装束に身を包んだ奉仕員により、四基の鳳輦は九基の山車と共に新緑の札幌の街に出御となりました。渡御行列は約十二・五キロにわたって練り歩きました。渡御中は終始薄く雲が広がる天候でしたが、柔らかな日差しと爽やかな風が時折吹く中で沿道には多くの方が集まり、鳳輦に手を合わせておりました。



宵宮祭



例祭



神輿渡御駐輦祭



後日祭



奉納舞台(神前舞台)



奉納舞台(土俵舞台)

天皇皇后両陛下 蒙古国御渡航行幸啓 安泰祈願祭並びに 御渡航還幸啓奉告祭

天皇・皇后両陛下には七月六日(日)～十三日(日)の御日程でモンゴル国を御訪問になられました。

それにあわせ全国の神社にて行幸啓安泰祈願祭並びに還幸啓奉告祭が斎行されました。

当宮では七月三日(木)午後一時三十分より御渡航行幸啓安泰祈願祭を、七月十四日(月)午前十時に御渡航還幸啓奉告祭を執り行いました。

第十四回七夕まつり

八月一日(金)から八月七日(木)まで神門前と西回廊へ七夕飾りを設置しました。笹には国内外問わず多くの子どもたちの願いを描いた色とりどりの短冊が下げられ風になびいていました。



神門前の七夕飾り

大祓並びに家内安全祈願祭

夏越の大祓を、六月三十日(月)午後三時より斎行いたしました。当日は晴天に恵まれ、多くの皆様のご参列のもと、神門下祓所にて大祓の神事を執り行いました。その後、お納めいただいた人形を乗せた舟を先頭に、神事に奉仕する神職巫女が列をなして神門前に設置した茅の輪をくぐり、引き続き本殿にて家内安全祈願祭を斎行いたしました。



夏越の大祓

第五十五回 夏季ラジオ体操会

七月二十六日(土)より八月二十四日(日)まで、園児・小学生を対象とした第五十五回夏季ラジオ体操会を開催しました。期間中は午前六時三十分より毎日行われ、延べ二四一〇名の子どもたちが参加しました。土曜・日曜日のラジオ体操会終了後には神門下手水舎裏にて有志による紙芝居も行われ、早朝の体操を終えた子供たちが熱心に聞き入っていました。



ラジオ体操をする児童

御鎮齋記念祭

明治二年九月一日、明治天皇の思し召しにより北海道・開拓の守護神として大國魂神・大那牟遲神・少彥名神の三柱を祀る北海道鎮座神祭が東京の神祇官にて斎行されました。これを記念して九月一日(月)午前十時より御鎮齋記念祭を斎行し、祭典では明治天皇百年式年祭に合わせて作舞された「黎北の祈り」を奉奏しました。

祭典終了後には北海道神宮に対して功績のあつた方々へ表彰状と記念品の授与を行いました。また、午後四時から北海道神宮舞楽会の三条神楽が奉納され、参拝者には餅が配られました。



黎北の祈り

表千家献茶式

表千家献茶式が六月二十八日(土)午前十時半より茶道表千家不審庵猶有齋千宗左家元のお点前により執り行われました。式では千宗左家元が濃茶と薄茶を謹点し、御神前にお供えされました。献茶式には道内各地より、表千家同門会の会員約二百名が参列しました。本殿には家元のお点前を映すモニターが設置され、会員が真剣な眼差しで見届けていました。

献茶式に際して、梅・桜の間に高畑純子氏(表千家同門会札幌支部副支部長)担当の拝服席、直心亭に川西雅子氏(表千家同門会札幌支部参与)担当の副席が設けられました。



千宗左家元

奉納品並びに奉納者ご紹介

令和六年九月より令和七年八月までの間、篤志の真心をご奉納頂きました皆様をご紹介いたします。誠にありがとうございます。(敬称略・順不同)

王子木材緑化 株式会社北海道支店 (正月用門松 三百万円相当)	熊谷卓司・美恵 十万円	医療法人恒仁会 理事長 熊谷卓司 十万円	医療法人 誠心志村デンタルクリニック 理事長 志村俊一 頓宮社殿幕	日曾可良善 百万円	佐藤剛志 十万円	橋本晃一 百六十六万円
--	----------------	----------------------------	--	--------------	-------------	----------------

拔穂祭



お供えする稲束を選ぶ小椋副会長

九月二日(火)午後一時より、上川郡東川町にある北海道神宮神饌田(耕作者三田常男氏)において拔穂祭が斎行されました。間島宮司が斎主となり、田長を北海道農業協同組合中央会副会長理事小椋茂敏氏、田長介助役を北海道農業協同組合中央会参事津村則安氏、耕作長を東川町農業協同組合代表理事組合長牧清隆氏がお務めになりました。祭典には東川町長をはじめ、東川町関係者、札幌よりの奉仕団約百二十名が参列し斎行されました。

収穫された稲穂は北海道神宮の神饌米として日々お供えされます。

北海道博物館

第十一回特別展に資料貸出

北海道博物館にて七月十九日から九月十五日までの間、「新選組永倉新八と会津藩士栗田鉄馬―二人のサムライが歩んだ幕末・近代―」と題した特別展が開催されました。北海道神宮所蔵の栗田鉄馬が描いた「官幣中社札幌神社神興市街巡幸之図」など計四点を貸出しました。



官幣中社札幌神社神興市街巡幸之図



学芸員による解説

第五十五回 写生大会

昭和四十五年から始まり今年で五十五回を迎えた北海道神宮写生大会が九月六日(土)開催されました。初秋の暖かな日差しに照らされる境内で、参加した一五三名の児童たちは、実行委員会の先生のアドバイス受けながら子供らしい伸び伸びとした絵を描き上げていました。

厳正な審査により神社本庁統理賞等の各賞が選出され、十月十三日(月)に参集殿にて表彰式が行われます。

すべての作品は十月一日(水)から十一月三日(月)まで、本殿横の東回廊にて展示されます。



絵を描く子供たち

開拓神社

八月十四日(木)午後六時、開拓神社宵宮祭が斎行されました。それに先立ち、午後三時より開拓神社にお納め頂いた皆様の願いが書かれた木札をお焚き上げすることで御祭神へとお届けする、開拓神社祈願札焼納祭が執り行われました。



こども神輿渡御



大神輿渡御

十五日(金)午前九時、例祭並びに発興祭が斎行され、併せて御神輿に御霊を移す御霊代奉遷の儀が執り行われました。児童たち約二百名によるこども神輿、大人の神輿渡御が行われ、子供たちの元気な掛け声とともに円山地区を渡御しました。

開拓神社例祭にあわせ、十四日(木)～十六日(土)の三日間、宮の森盆踊り同好会主催の盆踊り大会が北

一条駐車場にて開催されました。連日多くの子供たちが訪れ、最終日には子供仮装盆踊りが行われ、優秀者に対して表彰が行われました。

四月二十日(日)より総勢二十チームが参加し行われた第三十八回開拓神社杯軟式少年野球大会の閉会式が八月十五日(金)午前七時半より北海道神宮拝殿にて行われ、優勝したニーススターズをはじめ入賞チームが表彰を受けました。

八月十七日(日)には開拓神社大神輿渡御が道神會を中心に道内各地の神輿会による担ぎ渡御、発興から還興までの曳き渡御は和つしよい北開道を中心とした市民の方々の奉仕により執り行われました。南一条西二～四丁目間は歩行者天国となり担ぎ渡御や北札蔦土木組合による木遣り、北響太鼓と福井ばやし保存会による太鼓演奏が行われました。午前は冷たい雨の降る天候でしたが、歩行者天国にて行われた駐輿祭後には晴れ、滞りなく渡御を終えました。

奉賛会だより

〈北海道神宮奉賛会〉

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和七年五月一日から八月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(敬称略・順不同)

新入会員のご紹介

牧野千鶴
谷信樹
関堂勝幸
井上昌之
村松彩子
中野千秋
内海秀崇
中梶和義
本多俊司
辻倉あゆみ
三郷恵子
齊藤有佳子
伊塚良美
中富良野 依みこし同志会 栗林 誉憲
中富良野 依みこし同志会 金川 英世
館本 貴裕
古川 啓子
生江 真未
富樫 豊子
山田 金吾
須貝 一春
レストラン ユッピー 矢田 幸蔵
石川 幸恵
CASEY ANDREW PATRICK
井上 朋子
中島 竜雄
丸山 知良
伊藤 友香
開発 紀夫
棚橋 靖廣
くどうエンタープライズ ㈱

協賛者のご紹介

◆十万円
チユウケイ ㈱代表取締役社長 稲葉 集介

◆三万円
下野 高

◆二万円
岩田地崎建設 ㈱
㈱オートランド札幌
㈱シマミヤ 嶋宮 勤
長谷川 好道

◆一万円
伊藤組土建 ㈱代表取締役社長 大谷 正則
大乗院薬王寺 住職 田中 清元
白馬堂印刷 ㈱代表取締役 花井 久美子
北陽ビルサービス ㈱代表取締役 森本 彰二
(二社) 北海道商工会議所連合会
㈱マルゲンビル代表取締役 佐藤 源五郎
みずほ証券 ㈱札幌支店
㈱グランビスタホテル&リゾート 札幌パークホテル
北海道神社庁神社総代会 副会長 平井 勇光

◆五千元
朝倉 英隆
長谷川 繁
堀井 重兄
八木竹材 ㈱
(区) 重仁会 大谷地病院 会長 田尾 重良
村本 和正
内田 大介
㈱シテイプラザプランニング
代表取締役 生方 淳

◆三千元 他
瀧本 貴俊
近藤 敦子
山本 恵
佐々木 幸
塩田 義昭
小山内 陽子
㈱君津特殊
岡村 克彦
針谷 毅
楠木 律子

第三十八回「境内清掃奉仕」のご案内

昭和六十三年から始まり、本年度で三十八回目を迎える恒例の北海道神宮奉賛会の境内清掃奉仕を行います。お誘い合わせのうえ本年も多数のご参加を心よりお待ちしております。

【日 時】十一月二日(日)
【集合時間】午前九時四十五分
【集合場所】北海道神宮 参集殿
【日 程】午前十時より正午まで
【申込〆切】十月二十五日(土)
※申し込みが五〇名となり次第締切らせて頂きます。
【受 付】毎日午前九時から午後四時まで
【連絡先】奉賛会事務局
電 話 六〇一〇二六
FAX 六〇一〇二六四
※寒さが予想されますので防寒着でお越しください。
※雨天の場合は中止となります。
※住所、電話番号、会員名を明記し事務局宛にFAXください。よろしくお願いします。



境内の清掃風景